

宮城 12版▲ 2010年(平成22年)8月23日 月曜日

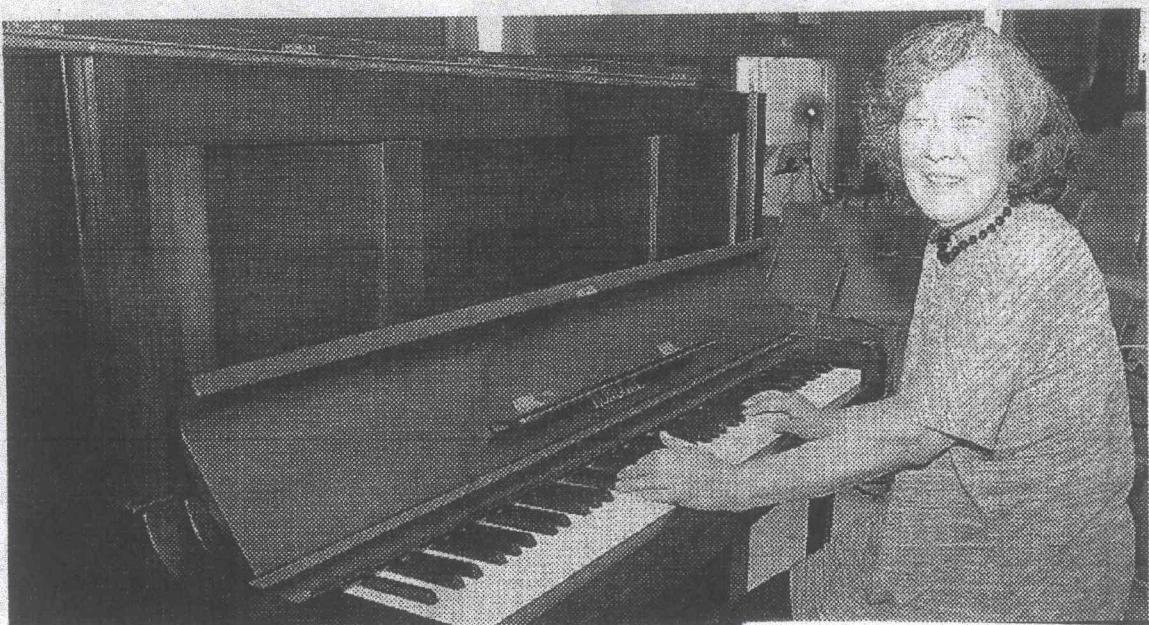
海を渡る被爆ピアノ

広島で被爆したピアノが初めて海を渡り、9月17日に米・国連本部で演奏される。渡米費用を集めるため、全国で十数回チャリティー演奏会を開いたが、まだ500万円近く足りない。ともに被爆を乗り越えた持ち主の松葉暉子さん(84)は、「ピアノの音色を通じて、世界の人にも核兵器に反対する気持ちを伝えたい」と話す。

ピアノは1933年、当時広島に住んでいた松葉さんが、母に買ってもらつた。爆心地から3キロの場所で被爆。背面に無数のガラス片が刺さり、塗料もはげたが、娘、孫と大切に使い続けてきた。

国連での演奏は「国際平和デー」(9月21日)に合わせた催しで、神戸市の写真家梶田誠さん(50)が企画した。22日、仙台市であったチャリティー演奏会で松葉さんは「音に力強さを感じます」と語った。実行委員会(080・5637・6405)によると、被爆したピアノは国内で9台確認されているが、演奏可能なものはそのうち6台という。

「反核の心伝えたい」米・国連本部で演奏へ



被爆ピアノに向かう松葉暉子さん
22日、仙台市青葉区、篠健一郎撮影